

- 問1 聖徳太子が推古天皇の摂政として行った政治改革の一つで、家柄にとらわれず、個人の才能や功績に応じて位を与え、役人に取り立てる制度の名称は何か。 (2018年 北海道公立入試 類似)
1. 十七条の憲法 2. 班田収授法 3. 公地公民 4. 冠位十二階
- 問2 8世紀ごろの東アジアの情勢を説明した次の文章において、空欄に当てはまる語句の組み合わせとして正しいものはどれか。「中国大陸では（①）が広大な領土を支配しており、その都である長安は国際色豊かな都市として栄えた。また、同時期の朝鮮半島では（②）が半島を統一しており、日本とも活発な交流があった。」 (2018年 大分県公立入試 類似)
1. ①：隋、②：高句麗 2. ①：漢、②：百済 3. ①：宋、②：高麗 4. ①：唐、②：新羅
- 問3 7世紀初め、推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸王）は、中国の高度な制度や文化を学ぶために小野妹子らを派遣しました。このとき、小野妹子らが派遣された、南北に分かれていた中国を約300年ぶりに統一した王朝の名前として正しいものを選びなさい。 (2021年 三重県公立入試 類似)
1. 漢 2. 唐 3. 秦 4. 隋
- 問4 天武天皇による律令国家の形成過程において、その政治的な背景や仕組みについて述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 京都府公立入試 類似)
1. 班田収授法を廃止することで、地方の有力者が独自に土地を開墾し、私有化することを奨励した。
2. 唐の軍隊が九州に侵入してきたため、防衛を目的として大宰府に防人を配置し、水城を築いた。
3. 壬申の乱で有力豪族を抑えて勝利したことで、貴族に頼らない天皇中心の強力な政治体制が可能になった。
4. 摂政や閑白といった役職を設けることで、藤原氏などの有力な貴族と協力して政治を行う体制を整えた。
- 問5 飛鳥時代の出来事のうち、中大兄皇子（天智天皇）らによる大化の改新（645年）よりも前に起こった出来事はどれですか。 (2026年 秋田県公立入試 類似)
1. 正倉院に納められているような精緻な戸籍が全国で作られた
2. 桓武天皇によって平安京への遷都が行われた
3. 天武天皇が壬申の乱に勝利して実権を握った
4. 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された
- 問6 7世紀後半、日本は唐や新羅による侵攻の脅威に備え、九州の大宰府周辺に「水城（みずき）」と呼ばれる大規模な土塁や、山城（朝鮮式山城）を築きました。これらの防御施設の築城にあたって、高度な土木技術を伝え、建設を指導した渡来人たちは、どこの国から来た人々が中心であったとされていますか。 (2021年 滋賀県公立入試 類似)
1. 高麗 2. 新羅 3. 百済 4. 渤海
- 問7 7世紀後半、朝鮮半島において唐と結ぶことで百済や高句麗を滅ぼし、半島を初めて統一した国を選びなさい。 (2014年 和歌山県公立入試 類似)
1. 高句麗 2. 隋 3. 百済 4. 新羅
- 問8 701年に制定され、唐の制度を模範として天皇を中心とした中央集権的な政治体制の基礎を確立した法典は何ですか。 (2020年 愛知県公立入試 類似)
1. 御成敗式目 2. 大宝律令 3. 十七条の憲法 4. 養老律令
- 問9 660年に唐と新羅が連合して百済を滅ぼし、その3年後に日本が百済復興を助けようとして唐・新羅連合軍に大敗した「白村江の戦い」という歴史的背景を踏まえ、日本が九州北部に「防人」を配置した直接的な目的として最も適切なものを選びなさい。 (2020年 広島県公立入試 類似)
1. 唐や新羅の軍勢が日本列島へ攻め込んでくる事態に備え、国防を固めるため
2. 九州地方で頻発していた政府への反乱を武力で鎮圧し、国内を安定させるため
3. 九州北部の広大な未開墾地を兵士に耕作させ、大陸への輸出入穀物を生産するため
4. 大陸の先進的な文化を取り入れるため、唐からの使者を九州で手厚く迎えるため
- 問10 大分県などの九州地方の歴史を記した年表において、倭国（日本）の軍勢が朝鮮半島へ出兵し、唐・新羅の連合軍に敗れた「白村江の戦い（663年）」が含まれる区分として、適切な世紀を選びなさい。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
1. 7世紀 2. 6世紀 3. 8世紀 4. 9世紀
- 問11 7世紀、朝鮮半島では唐と新羅が結んで百済や高句麗を滅ぼしました。日本（倭）は百済の復興を支援するために大軍を送りましたが、663年に朝鮮半島西岸の白村江で大敗しました。この「白村江の戦い」において、日本が戦った相手の組み合わせとして正しいものはどれか、選びなさい。 (2025年 茨城県公立入試 類似)
1. 唐・高句麗の連合軍 2. 新羅・高句麗の連合軍 3. 百済・新羅の連合軍 4. 唐・新羅の連合軍
- 問12 大化の改新の中心人物であった中大兄皇子が、のちに即位して天智天皇となった際に、律令国家の基礎を築く目的で作成した日本最初の全国的な戸籍の名称として正しいものを選びなさい。 (2021年 滋賀県公立入試 類似)
1. 庚寅年籍 2. 十七条の憲法 3. 班田収授法 4. 庚午年籍
- 問13 日本最古級の橋とされる京都府宇治市の宇治橋には、ある人物が建立に関わったという伝承があります。大化の改新から即位に至る一連の政治改革を行ったこの人物の、政治の目的や動向を説明したものと最も適切なものはどれですか。 (2018年 京都府公立入試 類似)
1. 中大兄皇子として政治を主導し、土地と人民を国家が直接支配する公地公民などの改革を進め、天皇への権力集中を図った。
2. 摂政として推古天皇を助け、冠位十二階や十七条の憲法を制定することで、家柄にとられない人材登用と役人の心構えを説いた。
3. 壬申の乱で勝利した後に即位し、大規模な都である藤原京の造営や、律令制度の完成に向けた準備を本格化させた。
4. 隠岐から脱出して鎌倉幕府を滅ぼした後、建武の新政を開始して、公家が政治の中心となる仕組みを復活させようとした。
- 問14 663年に朝鮮半島で行われた「白村江の戦い」において、日本（倭）が唐・新羅の連合軍に敗れた後の出来事として、歴史的背景に合致する説明はどれですか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
1. 敗戦の責任を問い、中大兄皇子が政治の表舞台から退き、大王による豪族連合政治が復活した
2. 大陸の影響を拒絶するため、遣唐使の派遣を完全に停止し、国風文化を育てる政策に転換した
3. 天皇中心の政治を諦め、有力豪族である蘇我氏に全ての政治権力を委ねる体制を整えた
4. 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した

答え合わせ・解説

問1	答え 4 冠位十二階	才能や功績に応じて冠の色で位を分けた制度は冠位十二階である。これにより、従来の氏姓制度にとらわれず有能な人物が発用される道が開かれた。十七条の憲法は「和を以て貴しとなす」など役人の心構えを示したものである。
問2	答え 4 ①：唐、②：新羅	7世紀後半、唐は朝鮮半島の新羅と結んで百済と高句麗を滅ぼしました。その後、新羅は唐の勢力を半島から退けて統一を果たします。8世紀は、中国では唐が全盛期を迎え、朝鮮半島では統一新羅が安定した統治を行っていた時期に当たります。
問3	答え 4 隋	聖徳太子は、中国の統一王朝である隋に対して「遣隋使」を派遣しました。それまでの朝鮮半島を通じた交流だけでなく、中国と直接国交を結ぶことで、先進的な仏教文化や政治制度を直接取り入れ、天皇を中心とする中央集権国家の確立を目指しました。
問4	答え 3 壬申の乱で有力豪族を抑えて勝利したことで、貴族に頼らない天皇中心の強力な政治体制が可能になった。	天武天皇は、武力によって皇位継承争いを制したため、それまでの有力豪族の影響力を抑え、自らに権力を集中させることができました。これが後の大宝律令へとつながる中央集権体制の基盤となりました。摂関政治や防人の配置（白村江の戦い後）、班田収授法の形骸化は、それぞれ異なる時代や背景に基づいています。
問5	答え 4 聖徳太子によって小野妹子が隋へ派遣された	遣隋使の派遣は607年に行われた出来事であり、645年の大化の改新よりも前です。壬申の乱（672年）や、721年の正倉院文書に見られるような律令制度に基づく戸籍の整備、そして794年の平安京遷都はすべて大化の改新よりも後の出来事です。
問6	答え 3 百済	663年の白村江の戦いで日本（倭）と百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に敗北した後、日本は大陸からの報復的な侵攻を恐れて国防を強化しました。この際、日本に亡命してきた百済の人々が持つ高度な技術が、水城や大野城といった堅固な防御施設の築城に活用されました。
問7	答え 4 新羅	4世紀頃から高句麗、百済、新羅の3国が勢力を争う三国時代が続いていましたが、7世紀に唐と結んだ新羅が660年に百済、668年に高句麗を相次いで滅ぼしました。その後、新羅は共同で戦った唐の勢力も退け、676年に朝鮮半島の統一を成し遂げました。
問8	答え 2 大宝律令	唐の「律（刑罰規定）」と「令（行政規定）」を参考にして、日本で初めて本格的に整備された律令です。この法典の完成により、土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則に基づいた律令国家の仕組みが形作られました。
問9	答え 1 唐や新羅の軍勢が日本列島へ攻め込んでくる事態に備え、国防を固めるため	660年の百済滅亡と、663年の白村江の戦いにおける日本の大敗により、当時の日本（倭国）は唐や新羅による報復的な侵攻を受ける可能性を非常に危惧しました。このため、天智天皇は大宰府などがある九州北部の守りを固めるために「防人」を配置し、あわせて水城（みずき）と呼ばれる堤防や、山城などの防御施設を築いて、国家存亡の危機に備える体制を整えました。
問10	答え 1 7世紀	白村江の戦いは西暦663年に発生しました。西暦601年から西暦700年までの期間が7世紀に該当するため、この戦いや、その直後に強化された九州の防衛（水城や大野城の築城など）は、すべて7世紀の出来事として分類されます。
問11	答え 4 唐・新羅の連合軍	660年に唐と新羅の連合軍によって百済が滅ぼされた際、日本は百済の遺民から救援を求められました。中大兄皇子（後の天智天皇）はこれに応じ、朝鮮半島へ大軍を派遣しましたが、白村江（現在の韓国の錦江河口付近）において唐・新羅の圧倒的な水軍の前に敗北を喫しました。これにより百済復興の望みは絶たれることとなりました。
問12	答え 4 庚午年籍	天智天皇は、670年に日本で初めてとなる全国的な戸籍である「庚午年籍（こうごねんじゃく）」を作成しました。これは、国家が民衆の氏姓や人数を正確に把握することで、安定した税の徴収や徴兵を行うための重要な基盤となりました。後の天武天皇の時代に作られた「庚寅年籍」と混同しないよう注意が必要です。
問13	答え 1 中大兄皇子として政治を主導し、土地と人民を国家が直接支配する公地公民などの改革を進め、天皇への権力集中を図った。	宇治橋の伝承に関連する天智天皇（中大兄皇子）は、唐や新羅といった大陸の強国に対抗するため、国内の権力を一つにまとめる必要がありました。そこで、蘇我氏という有力豪族を打倒し、それまで豪族が私有していた土地や人民を国家のものとする「公地公民」を掲げ、中央集権体制の確立を目指しました。
問14	答え 4 唐や新羅の侵攻に備えて、九州に水城を築き、防人という兵士を配置して国防を強化した	白村江の戦いでの敗北は日本にとって大きな危機であり、中大兄皇子（後の天智天皇）は九州の大宰府周辺に防御用の堤防である水城や朝鮮式山城を築きました。この国防の必要性が、国家の権限を中央に集中させる律令制整備の大きな要因となりました。